

第1回 春日部市水の官民連携事業者選定審査会

春日部市水の官民連携の導入について

令和8年7月27日

春日部市 上下水道部

- 1 春日部市の概要
- 2 春日部市の上下水道事業の概要
- 3 市の上下水道事業の現状分析
- 4 今後の展開

1 春日部市の概要

01 春日部市の地勢

- 埼玉県の一部に位置し、その市域面積は66km²、都心から35km圏にある。
- 古くから交通の要衝として栄え、国道及び鉄道が市内で交差している。
- 市内には8つの駅が立地しており、駅勢圏は市街化区域を広くカバーしている。
- 地形的には低平地であり、河川に恵まれた穀倉地帯を形成している。



02 土地利用

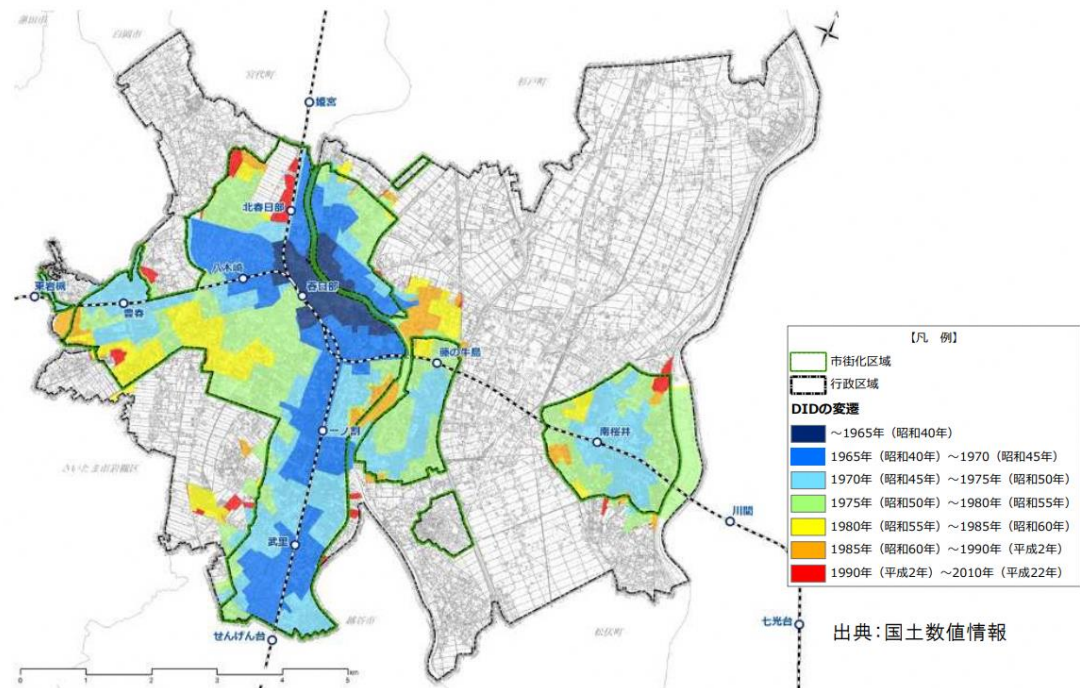
- 高度経済成長期に、鉄道駅周辺を中心に住宅都市として成長を遂げている。
- 広域幹線道路の整備や商業・業務機能等の集積等、埼玉県東部地域の中心都市として発展してきた。
- 市域66km²のうち約23km²が市街化区域であり、下水道区域は市街化区域とほぼ一致する。

土地利用

赤系	: 中心市街地
黄色系	: 住宅地
青系	: 工業系
緑系	: 農地・公園



DID地区（着色部）

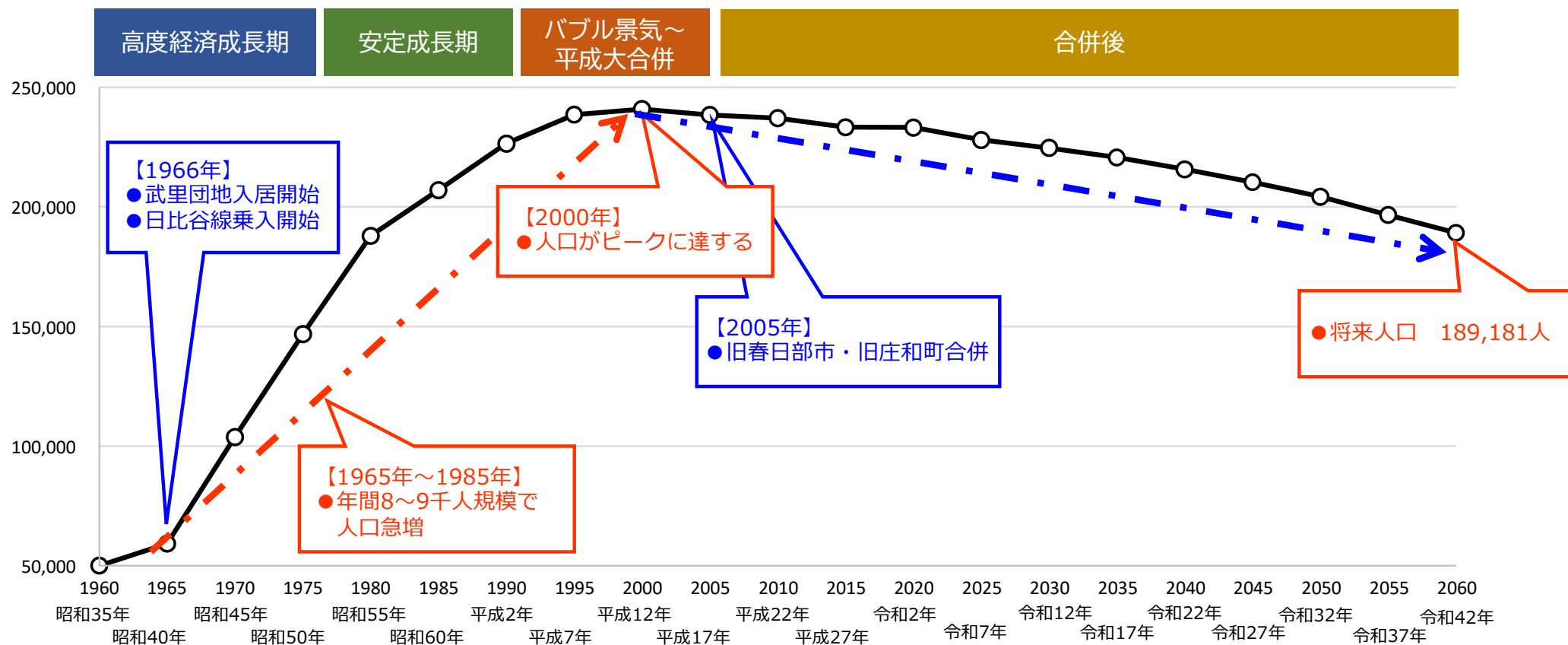


出典：国土数値情報

03 人口

- 本市の総人口は、高度経済成長期以降急増し、2000年(平成12年)をピークに減少傾向に転じ、2025年（令和7年末）にはピーク時と比較すると約8千人の人口減となっている。
- 春日部市人口ビジョンでは、2060年（令和42年）には人口約19万人と推計されている。

総人口の推移

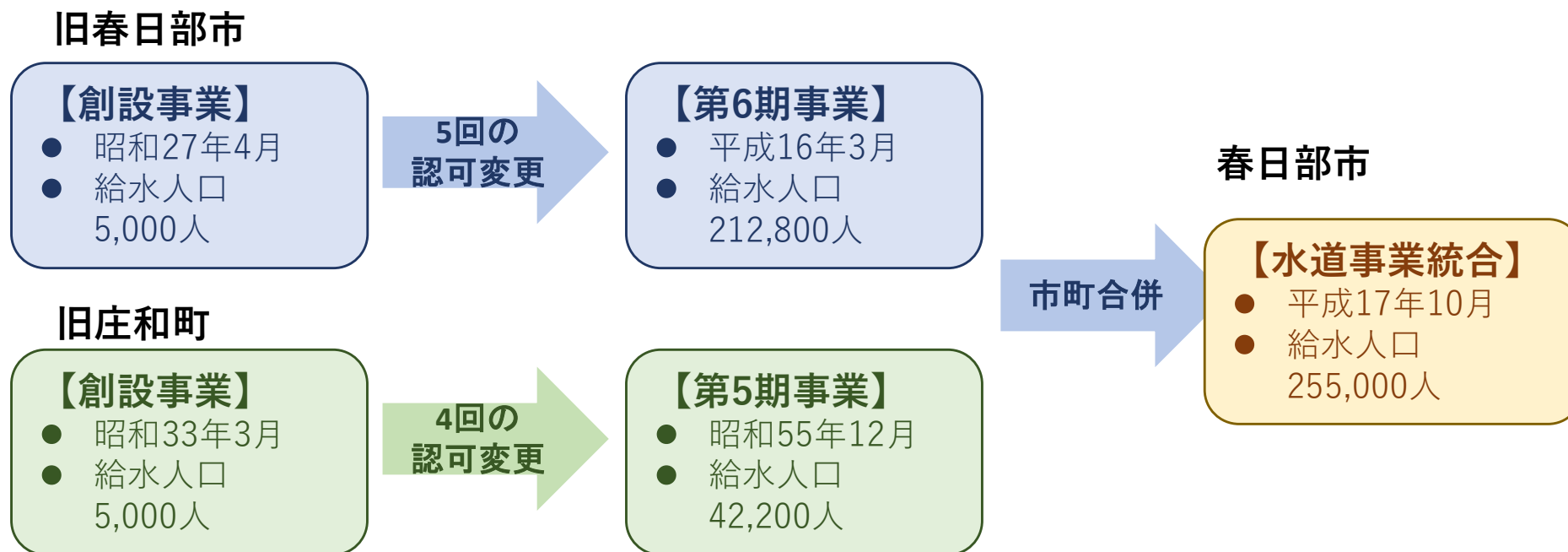


2 春日部市の上下水道事業の概要

01 水道事業の沿革

- 旧春日部市では、昭和27年に簡易水道として創設し、以来、6期にわたる拡張事業を行ってきた。
- 旧庄和町では、昭和33年に簡易水道として創設し、以来、5期にわたる拡張事業を行ってきた。
- 平成17年に旧春日部市と旧庄和町が合併し、両市町の水道事業が統合された。

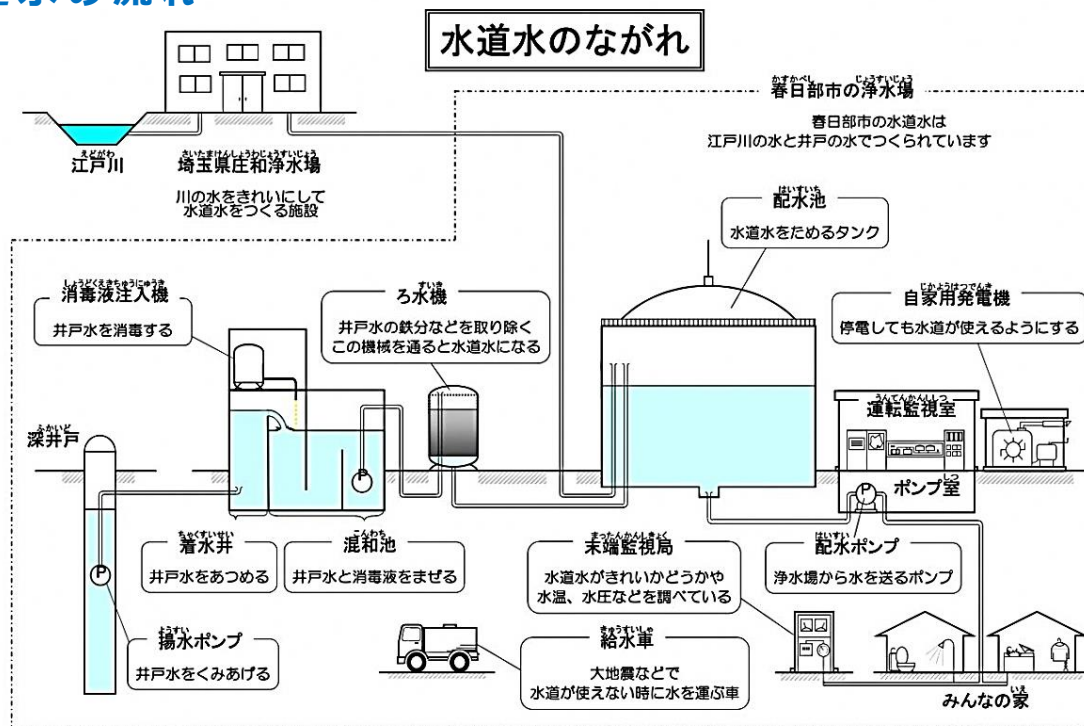
水道事業の沿革



02 水道施設の概要

- 水源は利根川水系江戸川の河川水（埼玉県用水供給事業）が90%、深井戸の井戸水が10%。
- 井戸水は市の浄水場で浄水処理した後、県水と混合して各家庭へ供給。
- 市には、5箇所の浄水場と20本の深井戸、末端監視局が6箇所ある。

水道水の流れ



施設位置図



03 水道施設の現状

- 耐震化率は、浄水施設72.5%、配水池79.8%と近隣事業体を大きく上回っている。
- 管路施設について、法定耐用年数超過管路率は44.3%と近隣事業体を大きく上回っている。
- 管路の耐震化率は23.7%と近隣事業体を下回っており、近年有収率も90%を下回っている。

水道施設の業務指標

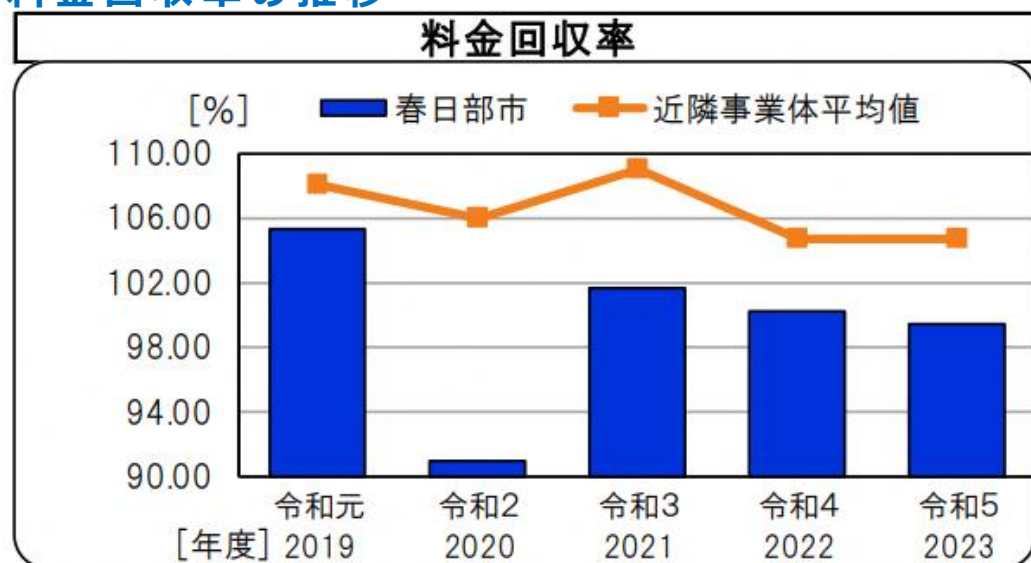
名称	令和4 2022	令和5 2023	令和6 2024	近隣 事業体 平均値
施設利用率（%）	65.8	66.1	65.6	76.2
最大稼働率（%）	74.1	74.0	72.4	82.3
浄水施設の耐震化率（%）	72.5	72.5	72.5	17.8
配水池の耐震化率（%）	79.8	79.8	79.8	52.0
法定耐用年数超過管路率（%）	42.3	43.4	44.3	14.2
管路の耐震化率（%）	27.4	28.0	23.7	38.7
有収率（%）	91.3	89.8	89.9	92.9

※近隣事業体はさいたま市、草加市、久喜市、越谷・松伏水道企業団、上尾市としている

04 水道事業の経営状況

- 料金回収率は令和5年（2023年）に100%を下回っている。
- 人口減少に伴い水道料金収入が減少、物価高騰等の影響により営業費用の増加。
→令和3年（2021年）以降営業利益はマイナスに転じている。
- 令和8年10月1日より水道料金改定。

料金回収率の推移



	令和元(2019)	令和2(2020)	令和3(2021)	令和4(2022)	令和5(2023)
春日部市	105.27	90.94	101.70	100.14	99.46
近隣事業体 平均値	108.07	105.91	108.93	104.72	104.74

収益的収支及び営業収益の推移



単位: 億円(税抜)

項目\年度	令和2(2020)	令和3(2021)	令和4(2022)	令和5(2023)	令和6(2024)	備考
収益的収入	43.17	42.05	41.76	41.31	41.22	①
収益的支出	40.54	39.74	39.26	39.77	40.76	②
純利益	2.63	2.32	2.49	1.54	0.46	①－②
営業収益	39.14	38.23	37.37	37.48	37.35	③
営業費用	39.11	38.74	38.35	38.66	39.91	④
営業利益	0.03	-0.51	-0.98	-1.18	-2.56	③－④

04 下水道事業の沿革

- 旧春日部市では昭和50年に、旧庄和町では昭和59年に事業認可を受け、事業着手。
- 平成17年の市町合併に伴い、平成19年に両市町の下水道事業が統合された。
- 平成21年に「中川流域別下水道整備総合計画」が策定されたことから、計画人口・汚水量の見直しを実施。

下水道事業の沿革

旧春日部市

【第1期事業】

- 昭和50年12月
- 汚水：262ha
雨水：108ha

5回の
認可変更

【第6期事業】

- 平成15年3月
- 汚水：1,919ha
雨水：1,919ha

旧庄和町

【第1期事業】

- 昭和59年11月
- 汚水：70ha
雨水：65ha

5回の
認可変更

【第6期事業】

- 平成15年3月
- 汚水：307.8ha
雨水：299.6ha

春日部市

【第7期事業】

- 平成19年3月
- 汚水：2,226ha
雨水：2,218ha

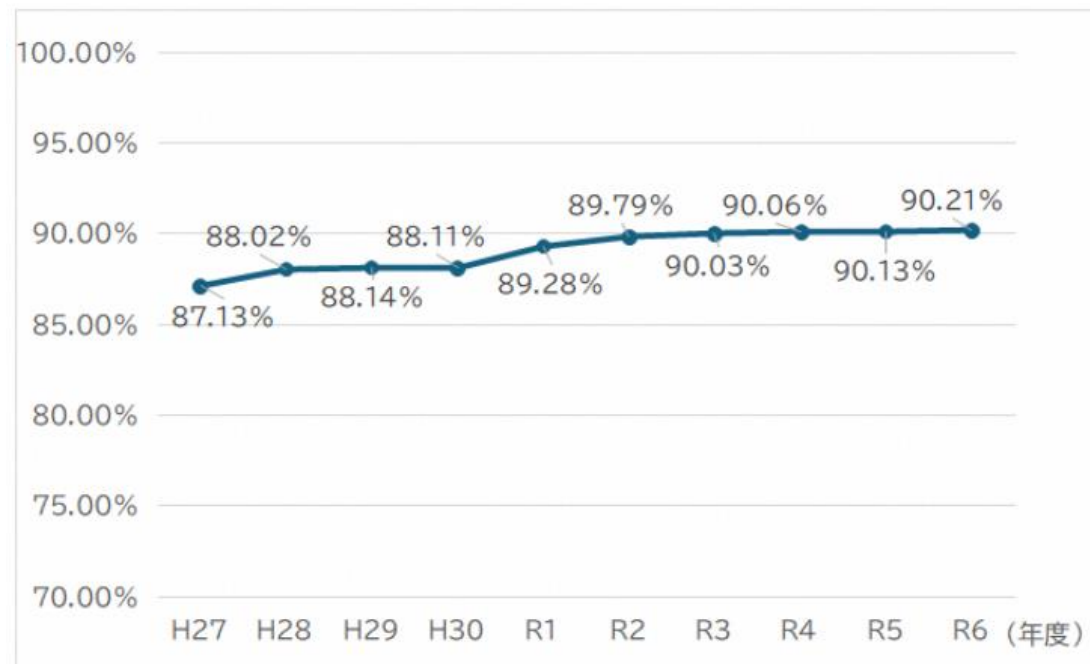
【現在】

- 令和7年現在
- 汚水：2,288ha
雨水：2,218ha

05 下水道施設の概要

- 広域化・共同化の一環で中川流域下水道に接続しており、汚水処理の人口普及率は90.2%。
- 汚水関連施設は、管路延長606.6km、中継ポンプ場2箇所、マンホールポンプ14箇所ある。
- 雨水関連施設は、管路延長2.4km、雨水ポンプ場8箇所ある。

汚水処理普及率の推移



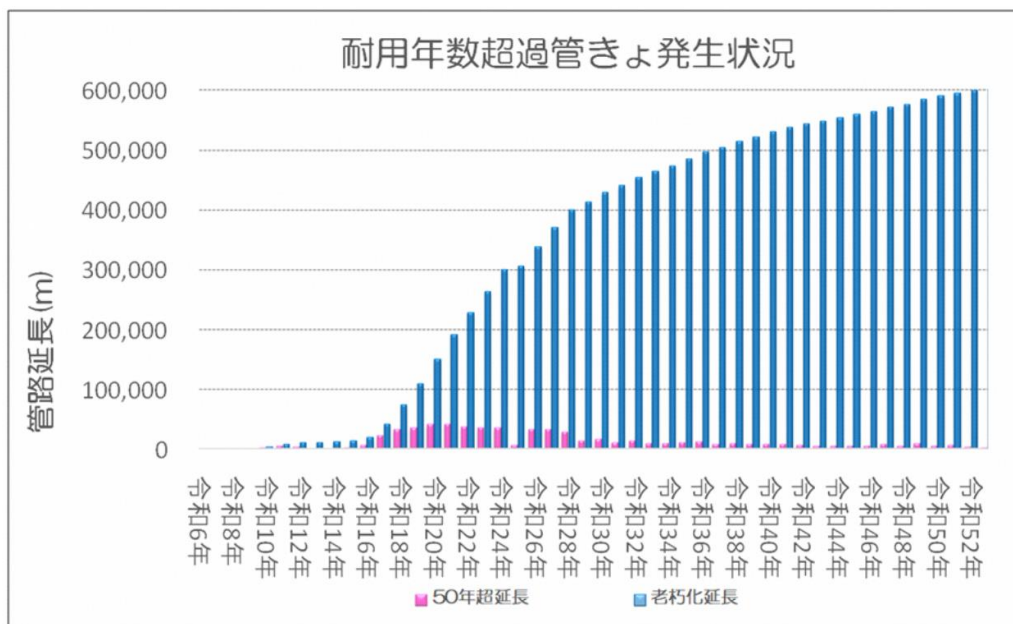
主要施設の位置図



06 下水道施設の現状

- 汚水の管渠について、敷設から50年近くが経過し、今後急激に耐用年数を迎える施設が増加する。
- 施設の老朽化に伴い不明水の浸入量が増加している。
- 浸水対策のため、雨水幹線の整備および雨水排水ポンプの増強が求められている。

汚水管 耐用年数超過管きょ延長



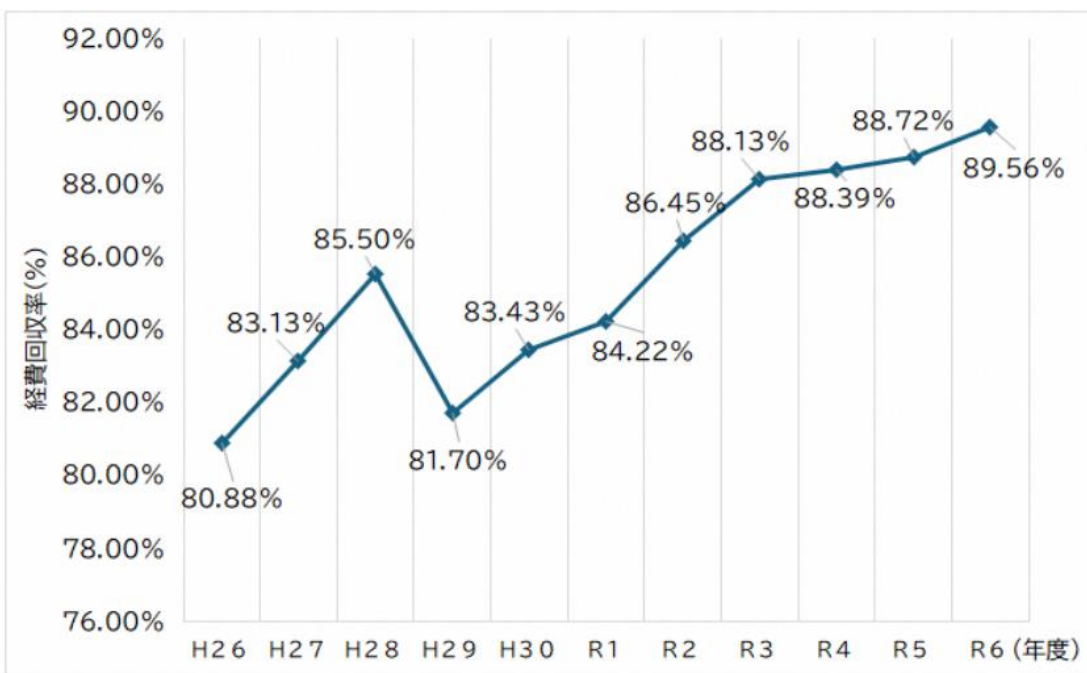
有収率推移



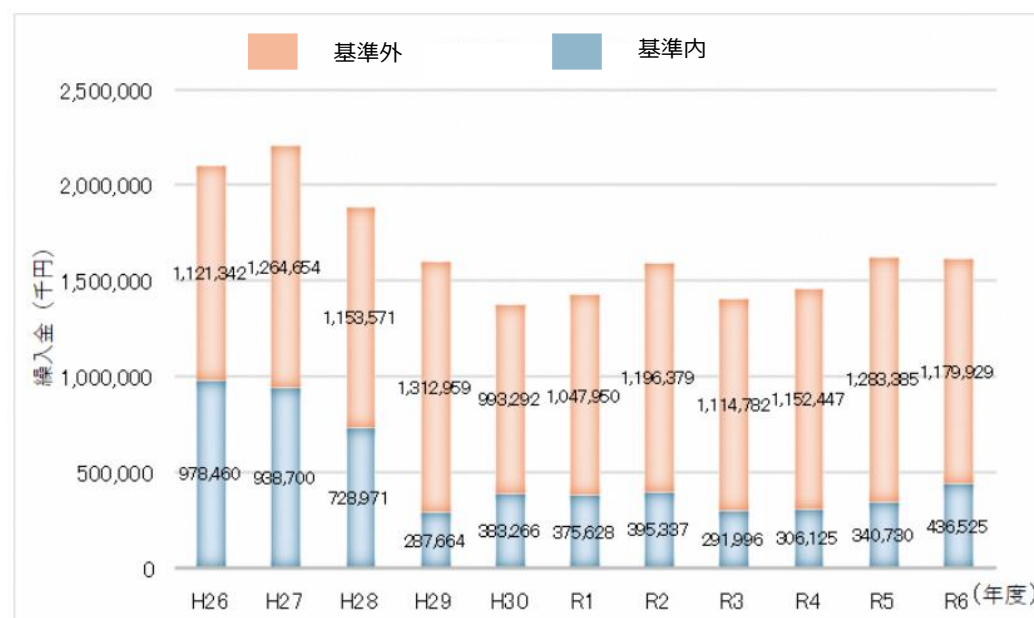
07 下水道事業の経営状況

- 経費回収率は令和6年度時点で89.56%となっており、使用料収入で回収すべき経費を賄っていない。
- 平成30年度以降、基準外繰入金は増加傾向にある。
- 老朽化による回収・更新の投資負担増大においても安定した事業継続が可能となるよう収益性の改善が求められている。
- 令和8年10月1日より下水道使用料改定。

経費回収率の推移



繰入金の推移



3 市の上下水道事業の現状分析

01 市の上下水道事業の現状分析

- 以下の分析項目ごとに春日部市の上下水道事業の現状分析を行った。
- 分析は**現状、将来見込、現状評価、課題**を個別検討シートにて整理している。

水道事業の分析項目

大項目	中項目
事業環境	水源
	人口
	給水量
経営・組織	従業者数・技術者数
	委託状況
施設・設備	施設・設備内容
	耐震化状況
	給水水質
	事故発生状況
財政	単価・料金
	収益的収支状況
	資本的収支状況
	貸借対照表

下水道事業の分析項目

大項目	中項目
事業環境	人口・処理水量
経営・組織	職員数・技術者数
	直営担当業務・委託状況
施設・設備	各施設の劣化及び投資状況
	事故発生状況・施設の課題
財政	財務収益性
	財務安全性

02 分析結果の整理方法

- 前頁の項目ごとに春日部市の上下水道事業現状分析を行う。
- 以下の基準にて総括表の整理を行う。

総括表イメージ

検討項目		課題	対応レベル	対応時期	対応方針	PPP/PFIによる対応策
事業環境	人口・処理水量					
経営・組織	職員数・技術者数					
	直営担当業務・委託状況					
施設・設備	各施設の劣化及び					
	事故発生状況・施設の課題					
財政	財務収益性					
	財務安全性					

【対応時期】
 直近 : 1, 2年内
 短期 : 3～5年程度
 中長期 : 6年程度以上

【対応レベル】

- A: 発注者にとって対応が必要である項目のうち、最も重視すべき「最重要対応」項目
 B: 発注者にとって対応が必要である「要対応」項目
 C: 対応の優先度が低い又は対応が不要な項目

4 今後の展開

事業スキームの検討

7月27日

- ・審査会(第1回)の実施
- ・事業スキーム案の検討

10月16日

- ・審査会(第2回)の実施
- ・アンケート内容を踏まえた事業スキーム案の検討

1月中旬

- ・審査会(第3回)の実施
- ・水の官民連携導入の意見取りまとめ

・「水の官民連携」手法の選択

マーケットサウンディング

8月18日

- ・説明会の開催
- ・アンケート調査

10月下旬

- ・個別ヒアリング